

「第9期南砺市高齢者保健福祉計画」第2回策定委員会議事概要

| | | | |
|-------|-----|---------------------------|---------------------|
| 日 | 時 | 令和5年12月26日(火)午後7時～午後8時43分 | |
| 場 | 所 | 南砺市地域包括ケアセンター2階 多目的研修室 | |
| 出席委員 | 14名 | ふく満居宅介護支援事業所管理者 | 池田 友子 |
| (敬称略) | | 南砺市ボランティア連絡協議会 | 石田 清子 |
| | | 南砺市医師会会長 | 金子 利朗 |
| | | 南砺市老人クラブ連合会会長 | 川口 正城 |
| | | 公 募 委 員 | 武部 範代 |
| | | 南砺市民生委員児童委員協議会会長 | 得能 金市 |
| | | (代理出席 田辺 章子) | |
| | | 砺波地方介護保険組合業務課長 | 長太 一進 |
| | | (代理出席 主幹 山森 良子) | |
| | | 公 募 委 員 | 中山 明美 |
| | | 南砺市社会福祉協議会会長 | 中山 繁實 |
| | | 公 募 委 員 | 幅田 健司 |
| | | 砺波地方居宅介護支援事業者連絡会南砺市代表理事 | 前川 喜美栄 |
| | | 南砺市地域づくり協議会連合会会長 | 松本 久介 |
| | | 南砺市政策参与 | 山城 清二 |
| | | 南砺市歯科医師会会長 | 山本 茂 |
| 欠席委員 | 1名 | 富山県砺波厚生センター所長 | 長瀬 博文 |
| (敬称略) | | | |
| 事務局 | 9名 | 地域包括医療ケア部 | 松田 哲也 部長 |
| | | | 水上 武司 次長・健康課長 |
| | | | 大橋 誠 次長・地域包括ケア課長 |
| | | | 松岩 健志 次長・医療課長 |
| | | | 上野 真希 福祉課長 |
| | | | 亀田 明子 長寿介護係長 |
| | | | 齊藤 直樹 長寿介護係主査 |
| | | | 金兵 留美 地域包括支援センター長 |
| | | | 竹内 嘉伸 地域包括支援センター長補佐 |

1. 開 会

2. 挨拶 委員長 中山 繁實

事務局：本日は代理の方を含め委員14名の方に出席頂いており、設置要綱第6条第2項の規定により有効であるという事でご報告させていただきます。

(配布資料の確認)

3. 議 事

委員長：それでは議事に入りたいと思います。初めに（1）の南砺市の人口増減と高齢化率の推計についてから、（4）の第9期の南砺市高齢者保健福祉計画（案）について、そして本日の追加資料「第1回南砺市市高齢者保健福祉計画策定委員会ご意見対応資料」これらを一括して、まず事務局の方からご説明をいただきたいと思います。多少時間がかかるかもしれませんがご容赦願います。それでは事務局お願いいたします。

(事務局 資料説明 「資料1」から「当日追加資料」まで)

委員長：ありがとうございました。ただいま資料に基づき説明がありました。ただいまの資料でわかりにくいところあれば質問いただきたいと思います。

委員：資料4-1と4-2の（1）ですけど、ほとんど前回の第8期を世襲しておられて、真新しいことがほとんど無い。国の方針に合わせて肉厚の計画になったぐらいですね。また、構築という言葉が推進に直すというのは、要するに構築というのはこれから始めますよという感じですよ。一方、推進というのは、体制は概ねできたから積極的に前に進むというイメージですよ。だから前回構築という項目が多かったのを、推進に変えていくというのは、私は全然間違っていないと思います。ここで、構築がいくつか残っている。例えば資料4-1の基本目標。大見出しは「全世代型地域包括ケアシステムを推進」となっている。構築から推進になっているわけですから、今まで培ってきたものをこれからどんどん進めるんだという力強さがある。ところが「誰もが支え、支えあえる地域の構築」になると構築に下がるのです。私は誰もが支え合う地域を作ろうと言ってきて、小規模多機能だとか今まで包括が頑張ってきたことを踏まえれば、なぜここで構築という言葉が推進へ変えられないのか。理由があれば

教えてほしいと思います。

(2) ですが、基本理念のところで、著しく私は違和感を覚えます。1番はいいと思います「幸せに生涯を過ごせる協働のまちづくり」。今はもう結構事業を伸ばして、老老世帯でも安心して暮らせるまちづくりだから。これは誰が考えても異論のあるところではない。

(3) から言葉遣いがおかしくなる、「地域包括ケアで家族の絆と地域の絆を結ぶまちづくり」。家族の絆という言葉が突然出てくるけれど、これはどの資料をみても家族の絆のことに触れた調査項目もデータも何も無い。ここで「家族の絆」というのはどうしても書かなくてはいけないものなのか。同じ家庭に住んでいても、お年寄りのことに全く関心を持たない家族がある。承知はするけれど、そこを再構築するような話を、家族の絆を我々はどうしたら取り戻すことができるのかということは難しい話ですよね。地域の絆はわかる、地域で助け合うことだから。そういう地域を作りましょう、それに包括がサポートして頑張るということだから。ここで家族の絆をどうするか書かなくてはいけない理由はよくわからない。

(4) ですが、「介護が必要になっても、家族と共に安心して暮らせ〜」、また家族という言葉が出てくる。「自宅で穏やかな死を迎えられるまちづくり」、ここで死という言葉は、例えば終末、ターミナルケアといいますか。「死」と書かなくても、やがて死ぬのだから。ここで「死」と書くという、そのセンス、配慮さが欠けている。要するにターミナルケアという処置の施しようがないくらいになれば、自宅に帰って、終末期を家族全体で迎えましょう。これは南砺市がずっと言い続けてきたものだから、突如出てきたものの考え方ではないでしょう。ただここに「自宅で穏やかな死を迎えられる」と言葉で書くと何かものすごく違和感がある。

(5) は「一人暮らしの認知症の方が笑顔で暮らせるまちづくり」で特に問題はない。これから我々は9期の計画を立てなければならぬけれど、推進と構築の違いはどこで誰がどう見極めるのか、という話と、基本目標と基本理念の言葉の使い方がどうもストーンと腑に落ちない。以上をお聞きしたい。

委員 長：ただいまの意見に対する事務局からの説明はございますか。

事務局：まずご質問の一番目、構築と推進の使い分けですが、おっしゃっていただいたとおり第8期の計画の中で構築というところで、システムができたものについては、それを推進していくということで、第9期からは推進に変更させていただくというところが基本となっております。

今おっしゃっていただいた基本目標の(1)「誰もが支え、支えあえる地域の

構築」ということで、ここだけ構築の方が残っております。これについては、検討はしたのですが、地域包括ケアシステムの中で、医療、介護、生活支援というところの柱があります。

医療・介護は、前回から二重丸をいただいているのですが、生活支援というところで、もう少し構築の方が必要ではないかというところで構築という部分を今回残させていただいています。

ただ、委員からおっしゃっていただいたとおり、地域づくり協議会で、生活支援はすごく推進していただいているので、これを構築ではなく推進でいいのではないかというご意見であれば、推進ということで基本目標を設定できるかと思っております。

委員 長：推進に直すだけなら文章としてどうかなという気はしないでもない。やはり支える地域づくりの推進にするなら、何か文章にはなる気がします。

委員：これは100%になるということはなかなか無い。だけど、徐々に構築してきたものではないか。小規模多機能は5年、その前から一緒に支えあう地域づくりを作るのに一生懸命やってきた。まだここで構築という言葉を引きずるのはどうなのか。推進でも十分。取り残している地域もあるだろうし、例えばB型でも10ヶ所から全然増えないわけで歯がゆい思いはします。これからもB型を増やしましょうと一生懸命市はやろうとしている。構築をここだけ残すというのは違和感がある。

あと、私が質問したのは言葉遣いなのですが、「家族」が出てくるという意味がよくわからない。今までこんなことを書いてきたのか。

委員 長：これは前と変わらないですよ。

事務局：はい、変わりません。

委員 長：たしか今の議論は前回の策定委員会でもありましたよね。

ただ、基本理念については、もう決定されたものと、オーソライズ（公認）されている意味で、そのまま残さざるを得ないという認識であったのですが、このままで行かざるを得ないという感じはしております。

委員：家族の絆ですが、我々この包括システムの市役所の人や医師、専門的な立場の人が家族の絆を直すということは可能かどうか。

委員 長：文面からすると、家族のつながりというものがなかなか地域まで伸びていない、家族を地域の中のつながりに結びつけていくという思いがこの言葉に込められているとこの文章を読んで感じたのですが、いろいろなとらえ方があると思います。

委員：ケアマネジャーの業務をしている中で一番私達が悩むのは、やはり、本人と家族の意見が違っていたり、家族が支援に協力してくれないとなると、本当に現場の職員たちは本当に悩みます。その中で委員のお話を聞かせてもらい、確かに絆というタイトルになってくると、どう対応できるのか。本当に答えを求めるとは、模索する日々だと思います。ただ、私個人としてはやはり介護保険、地域の方、本人だけではなく、家族の参入は必要なのかなという思いはある。家族の絆という言葉は何かしっくりこないのですが、やはり家族という部分は残していただけたらいいなと思います。

委員：独居老人なので、息子が東京にいる、名古屋にいる、ほとんど顔を見に来ない、そういうところにケアマネが入っている。私の会社もそうですが、そのことに対する悩みは尽きることなくあります。どうして一人暮らしにしたり、ひどい態度で、子供たちは親を放っておけるのか、不可解で訳のわからない家庭がものすごく多い。ケアマネは悩んでいる、そのとおりです。地域包括支援センターも毎日家庭訪問している。他のケアマネジャーがギブアップしたものを全部面倒見ている。それくらい家族の崩壊が進んでいるのも事実。だからそれを文章に書くとするのはどうでしょうか。

委員：言葉的には「地域包括ケアで家族と地域の絆を結ぶ」でいいのではないかな。家族の絆と入るから何か違和感がある感じがします。

委員 長：これを直すのは事務局としては難しいという認識でしょうか。

事務局：かなり前にこの地域包括ケアの初期の段階で、地域包括ケアを推進することがまちづくりの推進の一つということで、先ほど委員長が言ったとおり、田中市長たちがオーソライズ（公認）した文言です。一字違わず。今言われたように何年か経ったときにもう一度改めて見て、少し言葉遣いを変えた方がいいということであれば、再度オーソライズ（公認）するかどうか、それが可能かどうかはまた別に、検討させていただければと思います。
中身はおっしゃっていることと方向性は変わらないと思いますので、言葉遣いについて今日ご意見を皆様からいただいて再度オーソライズ（公認）できる

か検討させてください。

委員：10年前、家族の絆のことが話題になったのは確かだと思います。それから、地域包括はどれだけ頑張ったかという意味ではもうステージが2段も3段も上のところに行っているのに、10年前のそのときに書いた言葉に縛られているのはナンセンス極まりないと私は思います。ステージがもう上がっている。ステップアップしている。そのときに昔の言葉が突然出てくると、我々としては一緒に包括を支えてきた立場から言うと今更何の話をしているのかと疑問に思う。家族の絆があれば老老世帯とか一人暮らし世帯とか増えません。どんどん老老世帯などは増えるばかり。そして、エアコンつけてあげたらどうですかと家族にケアマネが言うと、家族は放っておいてくれと。家族は、本人に10年前エアコンを付けようと言ったら、本人がいないと言ったから、今もいないのだと言う。訳のわからないことを言っている。それを説得するのはものすごく大変です。皆苦労している。ステップアップしていると思います。そういうことに確信を持って、次のステップに行こうというスタンスを明らかにした方が私はこの第9期は意味のあるものだと思います。これは10年前に書いた文章だからこの五つは残すという私たちは何のために集まっているのか。そのとき、穏やかな死が迎えられると10年前に書いたのかもしれませんが。今こんな言葉使わないでしょう。病院は死に行くところじゃありませんと南砺市民病院はずっと前から言い続けてきたこと。

委員長：まちづくり規範を基本理念に落とすということ自体がいいのかというところもあるかもしれない。やはりスローガンのものだから、今新たに入れる所を考える必要があるかもしれません。

委員：考えるしかない、今我々が。これからどうするかだから。ここにいる皆が同意すればいい。

委員長：基本理念をまちづくり規範から離れた形で考えてもいいのではないかな。

委員：プライベートな話になるかもしれませんが。話を聞いて、診療している状況をずっと思い浮かべて感じたのは、やはり患者さんと本人と、それから家族の間の意思の違い、これを綺麗にさばく方法は私自身に無く、ある程度若い人たちと、ある程度の年齢の方と、世代間、世界観もずいぶん違う。私が実際に困っているのは目の前に家族の方がおられずに本人に意思確認をしたとなるとやはり

困ると思います。この文章の使い方について、私の思いだけ述べさせてもらいますけど、例えば（３）であれば、「家族と地域を結びつけるシステム」この方がすごくピンとくる。もう１回言いますと、「家族と地域を結び付けるまちづくり」、そうすると中に介在してもらいたい人たちが誰かを考えると、ケアマネであったり、それから家族の方も当然中に入る。家族でも一生懸命やられている方がいらっしゃる、そう考えたときに、この言葉が一番ぴったりかと先ほどから考えています。

それから、（５）の認知症、１人暮らしの話ですが、その方の笑顔で暮らせるまちづくり、私は少なくとも患者との付き合いで話を聞いていても、やはりいい話が出てこない。でも何となく方向づけしてあげたいし、かといって患者さんの家族もおられるわけなので、その中ではっきりした答えも出ない。

この文章、（４）も（５）も、その言葉が綺麗であっても、陰に隠れた人たちの感情はすごく重いものがあるような気がします。認知症の方がニコニコするということは誰かが深く関わるわけで、それが家族であるのか、第三者であるのか、行政の方であるのか、そのあたりを精査し、何か感じ取って方向付けする人がいれば、少なくとも鬱に陥ることもないし、しんどい思いもされることもないだろう。ただ気を付けないといけないのは、患者側ではなく、家族の中に踏み込んで、当然土足で上がるような真似をしてしまうと必ず崩壊しますので、そのあたりが一番私自身、診療所の中での問題であると思うのです。言いたいことも言えずに一応それらしい話はするけれど、実際は家族の方でも、若い人たちは決して悪いわけではなくて、その生活感、生活圏内がありますから、それを全く無視して、家族の方に時間を費やすというのはやはり無理だと思うので、そのあたりうまく交わるような地域づくりを。結局また綺麗な言葉になってしまったのですが、家族とその地域を結び付けるまちづくりということであれば、行政の方が介在されて、何か方向付けして、あるいは介在するだけで会話した人間はずいぶん楽になりますから。

委員：7～8年もう少し前、前の前の計画、私がオランダに行って帰ってきてから、力を入れて作られたというのは、よく聞いている。最初の目標のところ、構築は推進でいいかと思うのですが、もう一つの基本理念の（３）（４）（５）を目標にすると、既にかかなりの覚悟が必要ですね。住民も行政も。家族の絆という言葉が協力でもいいのですが、絆の意味は先ほどケアマネさんが言った、家族と一緒に相談してくれるような絆です。そんなにがっちりじゃなくて、とにかく相談に乗って家族同士が同じ方向で相談にのってほしいという絆です。地域の人も高齢になってきて、なかなか参加できない。絆という言葉がすごく強いのですが、これはかなり覚悟があることだと思っています。

それからもう一つイメージで強調しているのは、死という言葉。穏やかに死ではなくて穏やかな死と安心して暮らせるということを大事にして、結果的に死にがいのあるまちづくりとときどき言いますが、生きがいのあるではなく死にがいのあるということは、死というのは生きがいなので、逆に言うと、生きるということを考えるのが死なのですけれども、ここもかなり覚悟が要るということ。

最後の(5)の笑顔について、認知症の方が笑顔で暮らしている人はあまり見たことないです。ただ、笑顔という背景には、そういう非常に困っている状況ではなくて、ニコニコはしていないのだけど、穏やかに安心して暮らしている認知症の人がいるということなので、笑顔という言葉が、さらにもっと強い意味を持っている。南砺市は、この言葉でいろいろな議論ができるということ自体すごくレベルが上がっているのではないかと思います。

振り返ってみると、もう皆さんそういうお年になってきていますよね。私も委員も自分の10年後を考えると、それぞれが全部当てはまると思います。だから、その覚悟で委員がたくさん意見を言われたと思います。

私は言葉を少し変えてもいいのではないかと思います。一つ最後に言いたいのは、南砺市は本当に全国的にかなり進んだ地域包括医療ケアであること。医療の言葉を入れたのは病院が頑張っているから。地域包括ケアではなくて、前の副市長さんでしたか、頑張っているので医療を入れますよということで地域包括ケアの代わりに地域包括医療ケアになった。

私が10年ぐらい前に言ったときはすごく強い言葉でこんなことできるのかと思ったのですが、それに向かってきているのは素晴らしいと思います。絆という意味にはいろいろな意味あるのではないかと。ケアマネさんも非常に動きやすくなるような家族の絆とか、地域でもいろんなことを、B型サービスができるような地域の絆というのが必要なのではないかと。

かなり強い言葉ですけども、頑張っただけでここまで行政の方が確保して、やってただけのだったらこのままでいいのではないかなと個人的に思っています。

事務局：他の自治体では、例えば、基本理念は一つのパターンが多いです。例えば西東京市では、共に支え合いいつまでも楽しく自分らしく暮らせるまち、など。一つの基本理念にして、そしていろんな重点目標を作る、そういうパターンもあるかもしれないということもありまして、この5つの数にこだわるのではなくて、1つにする。例えば砺波広域圏の介護保険組合のテーマが、「高齢者が住み慣れた地域でその一員として尊重され生きがいを持って暮らし続けられるまちづくり」という基本テーマを挙げております。その前にこの基本理念が4つあるのですけれども、うちの基本理念のことと意味合いが違ひまして。テ

マとしては今言ったように、一つのテーマを掲げておりますので、事務局として一つのテーマに集約した案で提案させてもらうのも一つあるかなと思います。

委員：逆にハードルを落とす必要はないような気がします。

だから本当に南砺市自体が何をしたいかというのは、今委員も言われましたが決してこういう考え方が悪いとかという話ではなくて、現実には置かれている立場の人をできるだけ生きやすく、認知症を抱えてもその認知症の周りの人たちが優しくなれば、当然認知症の人たちもその環境も変わってくる。言われているような文言を一つにするのもいいかもしれませんが、本当にこの5つの言葉を中心に考えて、南砺市が進んで行かれるのなら別にそれはそれでいいような気がします。

委員長：まちづくり規範とか策定されているとは思いますが、高齢者福祉に関する規範ということなので、まちづくり規範をこの計画から逸脱させてしまうということは不自然かもしれません。

ただ、この基本理念をもとに規範を南砺市は持っていますよという形で、委員がおっしゃるように、高次な世界ではあるのですが、絶えずその理念に向かって続けていくという姿勢を示すという意味ではありという気はします。

委員：（3）で、地域包括医療・ケアだから。行政ががんばるところ。家族と地域が支え合うまちづくりとかをさらっといけばいい。絆という言葉で、先生方からお話があったとおり、絆というのは重い言葉ですよ。それを実現するというのはなかなか難しいから、支え合うまちづくりで十分。それを絆と言ってしまうものだから、急に難しくなる、ハードルが高くなる。

それと、（4）の、「介護が必要になっても、自宅で安心して暮らせ、穏やかな～」にある「死」を残すかどうか私はちょっと定かではない。後ろの方に自宅という言葉が出てくるのですが、「家族とともに」を「自宅で」に直せばいい。自宅で暮らすということは家族とともに暮らすということではないでしょうか。自宅で家族と別に暮らすとは普通考えないでしょう。「自宅で安心して暮らせ、穏やかな終末期を迎えられるまちづくり」、前の方は家族と書いて、後ろにいくと自宅という言葉になる、同じことを言葉を変えて二つ書いてある。家族と自宅はどう違うのか。もし同じことを繰り返すならば、家族で穏やかな死というのはおかしなこと。要するに、同じ言葉が家族と自宅、使い分ける必要があるのかということ。

それから（5）は、認知症の方が笑顔で、とある。ここは笑顔ではなくて、認

知症になっても安心して暮らせる、わかりやすい言葉に変えればいいのでは。笑顔と書いてしまうので訳が分からなくなってしまう。

1つにしてしまうことがいいのか、それは皆さんの意見ですが。書くとしても、ちょっと平たく、あまりハードルが高くない言葉遣いで書いた方が良さそうな気がします。

委員：今も1つとか、5つとか決してこだわっているわけではなくて、私もどちらでもいいという気持ちはあるのです。ただ私自身、やはり10何年、延べ全部で10何年の会長経験等、それから会議にほとんど出てきたのですが、歯科医師会の歯科の保険事業の構築とか協議会の構築をずっと見てきて、やはり最初に立ち上げた気持ちというのはすごく私自身大事にしているのです。なぜその言葉が必要であったか、そう考えたときに、できるだけ当初の思いをそのまま残す形の方が私は自分の経験から言うと嬉しいかなと思います。だからあえてハードルを落として一つの言葉にしても結局その中にたくさんのが紛れ込んでしまうよりは、本当に掲げたい文章が当初これであったのであれば、私はそれを大事にしてほしいなと思うつもりで言いました。

委員長：やはり一つの大きな目標をもったスローガンとしてそのままの形でどこか計画には入れておくべきという認識は私は持っております。ともあれ文言の問題もありますし、そのあたりも含めてもう少し調整していただければと思います。事務局で考えてもらえれば。次回もあるので。次回はもう少し厚い製本の形で。十分知恵を絞っていただければと思います。

委員：こういう目標というのは、綺麗な言葉で並べて誰も読まないようなものが多いですね。南砺市はぜひ今の方向で具体的にこうだということを継続してほしい、これもまた文言を綺麗にして、どこの市町村でも使っている言葉になると、結局具体性がなくて、ただ綺麗なことになる。だからこれは、言葉も文言も検討していると思うので、この方向で事務局の検討をお願いします。言葉変えなくても工夫ができる。インパクトすごいです。

委員：前から、もう何十年前からいろいろな話をしているもやはり周りの市町村とか、合併前からの話が出てくるのですが、私にとってみたら今の南砺市の歯科保健推進協議会の枠組みもそうですが、はっきり言って他の市町村と比較して欲しくないです。ある程度のもので、後はそこから呼吸させるかどうかはやはりそれぞれの団体にある、もちろん行政の方が一番大変だと思いますけど。それと他の県内市町村と比較してどうか、向こうはああだからという話は

一切聞きたくないし、極論ですが、周りの人たちが頑張っただけなのに、何か他の市がどうだから変えるというのも嫌です。せっかく最初作られた文章を今皆さん、私もそうなのですが、おかしいとは思いつつも、一応出されたものを大事にしてほしいから、できたら言葉を少し柔らかく変えて、すごくプレッシャーになるかもしれませんが、お願いします。

委員：今の委員の話に私も共感してあえて言わせていただくと、介護認定率が、砺波市と比べてどうだとか、小矢部市と比べてどうなのかというのは、私は前から思っているのですが、市のスタンスだと思っている。市が優しい目で、地域の人たちを見守る、認定調査員がそういう環境の中で任務を任された人たちは、南砺市の認定率が上がるとか下がるとかではなくて、向き合った人がこの人は介護をつけてあげた方が、いろいろなサービスを受けられていいのだと思って行動される。要するに職員の思いです。特定の名前を言うのは嫌ですが、どこかの市が、認定調査員に、認定をあまりするな、と言う上司の下でずっと働いていたら認定率は下がるに決まっている。私はそう思っている。だから、南砺市はそれだけ優しくしても、他から比べて、遜色のない認定率というところを誇るべきで、あの認定率を下げようというのは、介護保険組合から言われてきているのだけど、本当は言いたくないけれど、あまりその隣の市と競い合うというのは、私は、間違いの始まりだと思うのです。

隣に負けてはいけないから、認定を厳しくしよう、と市が言い始めたら、この南砺市は滅茶苦茶になります。これは人のやる仕事だから、やっぱり包括の思い、南砺市の全ての人を助けてあげたいとか、優しい思いで認定調査員が頑張ると、できるだけ認定をしないでおこうと思っている市があるとは言いませんが、そういうことになると認定率下がるのです。そんなこと自慢し合っちゃって私は仕方がないのだと思うのです。

砺波市の百歳体操が功を奏して認定率が低いというのが、百歳体操、私も砺波の人から聞きましたけど、あれはフレイルとほぼ同じような非常に活力のある体操ですよ。あのようなもの、うちのB型に来ている人にフレイルを何回もさせたのだけどできない。片足で何秒を立てますか。そんなことができる人は要支援にはなりません。だから、ものすごく若い人を集めて週1サロンみたいにやって、集まる人、元気はつらつな人が来て、そのまま車を運転してきて、運動して1時間ほどしたら家に帰る。だから認定率が低いのだという極論に走るのはやめた方がいいと私はかねてから思っています。物の考え方が違いますから、それからそこに集う人のレベルは全然違う。元気はつらつな人が、お茶飲みがてらに車で来て、運動して、家に帰っていく。それと認定率はどうリンクするのか非常に理解に苦しむ。B型に来る人、うちの地域のB型に来る

人はフレイルはできません。1人もできません。こんなことをやらされるのなら明日から来ないとみんな言います。それぐらいに激しい運動だから。それはものすごく健康な人には非常に有効な手段だけど、一定の年齢が上がるとなかなか難しい。そういうことだから、隣の市の認定率が低い、百歳体操とか褒めたたえたりするのは、物差しが違いすぎると私は思います。

委員 長：今の意見にも少し前から思っていたのですが、認定率の改善というが、改善という言葉がいいのかという気が前からしてはいたのですが。低い方がいいのか高い方がいいのか、その辺りは難しいところかと思えます。

委員：なぜ改善しないといけないのか私にはわからない。

資料 4-1 の 2 ページに砺波市みたいに週一サロンも、どんどん参加者を増やすのだと赤字で太く書いてある。これは他の市に振られて、真似しようという作戦ではないのか。こういう理念はやめた方がいいと私は思う。先ほど事務局の説明もおっしゃいました、砺波市のように、週一サロンで元気に運動すれば、認知度も下がる。そういうことではないような。ここに赤字で太く書いてある、そういう隣の市を意識したりして、赤字で書いていることは私はナンセンスだと思います。

委員 長：これは計画には反映されないところですよ。

事務局：重点事項の3番の評価指標として位置づけさせていただければと思っはいるのですが、この週1回以上というものについては、週1サロンだけではなく、もちろん通所型サービス B についても、皆さんにとっては週1回の集いの場ということになるので、全て合わせて、やはり高齢者の方が行く場所があるというところで、今回設定させていただいたものです。

委員：前回から要介護認定率が下がった理由なのですが、実は通所 B が頑張っているという話ですね。

介護認定率の話は政治的な流れがあって、これが下がると、結局、医療費が出ない、介護費が安くなるということで全国の市町村はこれを出したがるのです。だから、介護認定率は避けられない。ただ、おっしゃったように、中には、認定しないで低いとかいうところもあるかもしれないし、頑張って本当に認定率を下げたところもある。10年ほど前に長崎の佐々町の保健師さんが頑張っているところもあった。だから、南砺市はここまで来たので、頑張ってやって、認定者は多いのだけどそれでも元気になって認定率が下がるとか、なるべ

く介護にならないような人があるのだということを目指してほしい。体操だけじゃないと思います。体操ではなくて、ただ集まるだけでも元気、ぺちゃくちゃ喋るだけでも元気。体操だけじゃない。だからそこら辺のところをしっかりと、せっかくいろんなことを活動してきたので、フレイルも、食べる、体操、運動、それから集まり、そういうことをきちっと南砺市では下がった理由を、南砺市と違う理由というのをもっと明確にした方がいいのではないかと。

そうするとやっている人たちが元気になる。地域でサロンをやっている人たちが元気になるし、それからフレイルで今やっている若者が、いろいろ広げている人たちが頑張るし、それからいろんなところでそれぞれサロンをやっている人たちも少しは貢献しているのかなというふうに思いますし、褒めるべきところの人たちのことを褒めてあげるとというのが行政の仕事じゃないかと。ただ数字だけ見て体操がいいから、うちも体操っていうのはどうかと。百歳体操とよくいいますが本当かなとちょっと思ったりするときもある。

南砺市は2番目ぐらいに高齢化率が高い地域ですよ。私が今行っている朝日町はトップで46%ですよ。担当者はもう少し丁寧に南砺市ならではの、ここで頑張っているというのをしっかりと出して欲しいなというのがある。前回も質問したのですが、今回も通所Bという回答がまた出てきたので、本当にそうなのかと。そこは真剣に調べると、それに関わる人たちが、元気になると思っています。

委員 長：今のこれらのご意見を数値的に把握するというのは難しい部分があるとは思いますが、また、できる範囲で考えていただければと思います。これまでの説明でなにか質問や補足ご意見ある方いらっしゃいますか。

委員：南砺市老人クラブ連合会です。老人クラブとしては、いつも基本的に思うのは、2：8の法則というのがありまして、これは2：6：2の法則ということで、上の元気な2割、下の今いう介護の人たちが2割、老人クラブは下の2割にならない6割の中でも下の方の人たちをどうやってどんな形で元気にすればいいかというのがテーマになってくる。先ほどあったようにeスポーツとか健康麻雀とか過度ないろいろなスポーツができない人たちで、何か地域に出てきてもらえないかというところが私たちの役目かなと思って今聞いておりました。

委員：家族というものが、なかなか成立しない家庭が多くなって、サービスするにあたって、協力できないとか家族同士が実際、息子さん同士だとか娘さん同士だとかが仲が悪いことで、なかなか意見が食い違ったりするので、本当にあくま

でも私の勝手な希望ですが、何か新しい、家族さん以外にもそういった方を支えてあげるシステムが出来上がると、スムーズにサービスを繋げてあげることができる。家族同士のいがみ合いでサービスが遅れてしまうということがないようなものを南砺市さんで作れたらいいなと勝手に思っております。

委員 長：今回は素案的なものもまだ提示されておきませんので、それは次回ということですが。前回の策定委員会のご意見についてどう反映させるかという部分について、何か事務局の方で、お話しておくべきことはございますか。

事務局：先ほどの説明の中で回答しておりますので、特にございません。

委員 長：次回の策定委員会では素案が出されると思います。今から新しい年を迎えて正月になるということでもなかなかお忙しい中ではございますが、次回またお手元のほうに原案が届くかと思っております。新たに変わったところも含めて最終的なものにして、パブリックコメントをもらって理解を得る、そういうスケジュールですね。ですから、正月も忙しいかもしれませんが、中旬くらいになるのでしょうか。素案は。

事務局：年明け 15、6 日くらいに発送いたします。

委員 長：そういうことで次回はこの計画の集大成の策定委員会になると思っております。そこでまだ少し議論が必要だということになると予備の委員会もされると思いますが。よろしくお願ひしたいと思っております。
今日は資料の説明と、それに基づいてどうしていくかというような形で、基本目標とか基本理念とかその辺りの議論が中心でした。
また資料が届きましたら、お忙しいとは思いますが、目を通しいただければと思います。今日の議題は終わりということになりますので、スケジュール等について事務局からご連絡があります。

事務局：今後のスケジュールですが、今ほど委員長のお話にもありましたように、次回の開催日については、1月26日を予定しております。皆様のお手元にお配りしております封筒にご案内が入っておりますので、またお忙しいかと思っておりますがご出席いただければ助かります。それに向かって資料の方は事前にできる限り早く皆様にお手元にお届けしたいと考えておりますので、また皆様からの忌憚のないご意見をたくさんお聞かせいただければ助かります。以上です。

それでは本日大変長時間にわたるご審議誠にありがとうございました。これ
をもちまして第 9 期、南砺市高齢者保健福祉計画第 2 回策定委員会を終了さ
せていただきたいと思います。